

18禁

やだあ〜(笑)
妹にオシッコし〜し〜し〜

可愛いわよ〜♡
写真撮るから、
こっち向きなさい〜♡

もっとJINROをこぼせ♡
ガパンコをこぼせ♡

しつぽららららら♡

女尊男卑社会で 来っ娘に堕ちたお兄ちゃん!

〜入学前の家庭の騷編〜

TS
リボルバー

「また不合格……」

『成人』する年齢は、
女子が20歳で男子は30歳。

国がそう定めたので、当然高校に入れる年齢も
大きく変化した。

女子は15歳で高校入学の資格を得る。

男子は25歳まで我慢しなければならぬ。

というか、男子も入学試験を受けるだけなら
25歳前でもできる。

でも、その場合は女子と同じ試験を受けなければ
いけない。

男子では、受かりつこない通常の試験を……。

25歳以上の男子向け入学試験、

通称Ⅱ男子救済試験Ⅱじゃなきゃ

男子の合格率は0.01%にも届かないのだ。

当然だけど、女子は救済試験でない方の、
普通の試験受けて入学する。

合格率は、この10年で99.9%を切ったことは
一度もない。

つまり男子と女子の成長度・実力はそのくらい
差が離れている……。

それでも僕は、普通の入学試験を受け続けている。
だつて……。

……男として、負けたくないから。

「そんな偉そうなこと言ったって、
また不合格だったじゃないっ！……！
お尻出しなさい！
来年は『男子救済試験』があるんだから、
しつかりと女性に対する敬意を身につけて、
可愛い男の子でいれるように
きつちり特訓しないとイケないのに！
受かりもしない試験に熱を上げてっ！……！
罰としてお尻叩きよっ！……！
お母さん、今日という今日は許しませんからね！」

「クスクス。
お兄ちゃん、また試験受からなかったの？
あんなの、勉強しなくても受かるでしょ、普通。
お・バ・カ・さ・く・ん(笑)」



「仕方ないわよ。亜弥。
春樹のオツムじゃ、掛け算が精一杯なんだから。
小学生以下の頭と、小学生並の身体で
高校入学は無理があるって事♥」

「そうだけどささ。
香里姉えだつて、高校入試ぐらいで
こんな苦勞してないでしょ？？」

「ぶっ。
苦勞の仕方が分かりませ〜ん。
そもそもアタシ、勉強で苦勞したこと無いし〜？」

「香里奈も亜弥も当たり前のこと言わないで頂戴！
男の子なんて、この程度なの！
だから身の程をわきまえることが大事なのに……。
この子つたら……！」

右で僕を小馬鹿にしているのが、一番下の妹。亜弥（あや）ちゃん。

高校どころか大学まで飛び級したお陰で、既に大学院生です。専門は『男子はいかにして女子を見習うべきか』の研究だそうです。



年齢で言うと、僕の6つ下。僕が中学1年生だった頃、彼女はまだ小学3年生でした。でも、当時から僕よりも頭が良かったです。昔は、とつくみあいの喧嘩もたくさんしたけど僕が勝てたことは一度だっただけありません。いつも泣くまで、一方的にやられ続けました。

左で笑うのが香里奈(かりな)お姉ちゃん。
亜弥ちゃん同様、飛び級で大学に入りましたが、
その頃スカウトされて、今では『モデル』のお仕事を
しています。
自分の仕事を『女の中の女がする仕事』と、
誇りに思っているみたいです。



年齢で言おうと僕の1つ上ですが、
もつとずつと大人な雰囲気があります。
僕の知らないことも何でもよく知っていて、
ママにはナイショですが、
本当はとつてもHな性格です。

昔は怖い時もあったけど、
最近は優しい時もあります。

そして僕のお尻を叩いているのが、僕のママです。
名前は順子(じゅんこ)。
仕事はデザイナーで、主に男子生徒用女兒服の
デザインをしているそうです。
後ろにかけてあるお洋服はママの最新作で、
来年の春に発表予定だそうです。



ママは年齢を言おうと怒るので、言いません。
でも僕を出産した時、21歳だったそうです。

ママは僕が来年の入学試験に落ちると
考えているみたいで、最近特に厳しいです。
自分のお仕事も忙しいはずなのに……

そして、ママに羽交い締めになされて逆さのまま
お尻を叩かれていたのが僕です。
来年から高校に入学できる資格を得ます。
でも出来れば、普通の試験で……、
女子と同じ試験で入学したいです。



男だからって馬鹿にされる謂れはありません。
お勉強だつて頑張っています。
でも……、今年もダメでした。

だからお尻叩きもしようがありません。
我慢するしか無いのです。



Vto Vto

お尻下げない!

STREAKS



おのれおたへん(笑)

もっとお尻を高く上げなさい

その年齢でお尻叩きとが
自分で男でしかよいか
一応は男でしかよいか
思わなさい



早くあーあー泣き止まれちやうた(笑)

もうやめてお尻叩きを止めるかは、お母さんが決めます!

超情けないね? お兄ちゃん♡

「もしかして試験に落ちたらからお尻叩きさされてるって思ってるんじゃない?」
違おうわよっ!!!!!

いつも言ってるでしょ!?!?

「男の身の程をわきまえて、おしとやかに。器量よく、言葉遣いに気をつけて。可愛らしく、女性に気に入られるように努力しなさい!」

それなのに女子に混じって試験受けて!!!!!
不合格になったことを責めてるんじゃないの!
女子と同じ土俵に立とうとしたことを叱ってるのよっ!!!!!

分かる?

男は可愛く!おしとやかに!

女の人には敬意を持つて!



「そーいうコトも分からないから、『男』なんでしょ?」

掛け算もまともに来ない癖に、プライドだけは一人前なんだからさ!

「分かる!」

せめて可愛く出来れば、多少は大目に見てあげるのにな!♡

「ほらっ!」

お尻下げないっ!!!!!まだ終わってないのよ!

今日はママがパンツ下してあげたけど、

次からは自分で下着を下ろしなさい!!!

相手がママじゃなくても...。

例えば高校の先生とか、同級生の女子とかでも同じようにね!

「お尻叩きは『生のお尻』が基本だからね。それに、自分でパンツ下ろせるぐらいにいじらしくないと、女の人はムカつくかも。」

「春樹。アンタさつきから全然謝ってないじゃない。お母さんにちゃんと謝らないと、一生お尻叩き終わらないよ? さつさと反省して、心から謝らないと。お母さんが大変でしょう? お尻叩きしてあげる方の身にもなりなさいよ。全部、全部、ぜんぶアンタの為に お尻叩きしてあげてるのよ?。」

「まだダメよ!」
「まだ許さないっ!……!」
あと15回はお尻を叩くからね!」



「あれ? あれれれれ?」

『反省』とか『あと15回』とか言われたら、急にオチ○チンの先つちよから何か垂れてきた。これつてさ、カウパー液だよな?」

お兄ちゃん♡♡♡

感じまくり?」
お姉ちゃんに『反省しろ』って言われて……、お母さんに『あと15回』って言われて……、感じまくり?。」

「亜弥! あんまり春樹をいじめないの!」
春樹は男の子なんだからしようがないでしょう? これから恥ずかしい思いをして
少しずつ、一個ずつ覚えればいいのよ」

「ま、それだと一生アタシには勝てないけどね。」

「あ、そうそう！
お兄ちゃんには知らないだろうけど、
高校つて男子は同級生の女子を
『お姉様』つて呼ばないといけないんだよ？
ちよつとでも粗相をしたらすぐに『お姉様』から
お尻叩きされるんだよ？
だから今のうちに、お尻叩きにも慣れていたほうが
いいんじゃない？」

「あら、最近はそうなの？」

「ママ、私の頃からずつとそうだよ？」

「……じゃあ少しでも早く

学校生活に『慣れて』いた方がいいのかしら」



「それは間違いないと思う！」

いくらお兄ちゃんでも『男子救済試験』なら
合格するだろうし。

少しでも早く慣らしてある男子は『お姉様』から
可愛がってもらえること間違いなし！」

「アタシも賛成かな。」

春樹は今日から男子高校生と同じように
女兒服着て生活するようにしたら？」

アタシたちの事も『お姉様』つて呼ばせてさ」

「あ、それ大事かも。」

ぶつちやけ来年からは私よりも年下の女子を
『お姉様』つて呼ばないといけないんだし！」

「……確かに。」

春樹には必要なことかもしれない……わね」

「決めたわ。春樹っ！」

今日からあの壁にかけてある女兒服を着て生活しなさい。アレ以外は着ちゃダメっ！」

それから香里奈だけじゃなく、亜弥のことも

『お姉様』って呼ぶこと！」

妹の亜弥のことをすんなり『お姉様』って呼べるように従順さを身につけなさい！」

「もちろん下着も女兒モノオンリーね。」

男子は高校では女兒パンティー、女兒ブラ着用だから♥

「名前は？」

「・・・名前？・・・？」

「ママ働き過ぎだよ〜！忙し過ぎだよ〜！」

今の高校は、男子を女の子の名前で呼ぶんだよ！」



「あら、そうなの？」

「元が春樹だから『春子』がいいんじゃない？」

「春の樹だから、『さくらちゃん』だと思っようよ〜」

「ダメよ。」

全部却下。

春樹の女の子の名前は『よし子』っ！」

決定だから！」

「え〜、なんで〜？」

「そうだよ〜。『さくらちゃん』が可愛いと思っような〜」

「春樹が女の子だったらつけようと思っっていた名前が

『よし子』なの！」

これは決定ですっ！」

こうして僕は『春樹』から『よし子』と呼ばれることになりました。

男性用の衣服は全てその日の内に処分され、

真つ白ブリーフは全てピンク色の、

可愛いリボンのついた女兒パンティーに。

Tシャツは全てピンク色の、服の上からでも揉み心地の良いゼリーパッド入り女兒ブラに。

僕としては、初めて袖を通す女兒用デザインの可愛いお洋服。

なんだか頼りなさを感じて、そわそわします。

そんな僕をママと『お姉様』2人は、

「少しでも早くその服に慣れるように」

と、お外に連れ出すことにしました。

真つ赤に腫れあがるまでお尻を叩かれた直後だから逆らうわけにもいきません。

もしも逆らいでもしたら、さつきよりもさらに厳しいお尻叩きのお仕置きが待っているでしょう。

「よし子、早く来なさい！」

貴方は末っ娘なのよ！？」

『お姉様』をお待たせしないの！」

「は……は……」

「嫌だあー！こんなの嫌だよおっ！ー！」

「ダメよ。男子高校生になったら、毎日お股の検査があるんだから。今のうちに慣れておかないと」

「お股が汚れてたり、オシッコ臭い男子は、ソツコ―で懲罰室行きだからね」。パンツの中は特に綺麗にしておかないとね」

「やだ、亜弥ちゃん。」

「なんで写真なんか撮ってるの？」

「末っ娘の成長記録だよ」。

「可愛い妹（年上男子）が、従順でいい子に変わっていく様を院の研究資料にしても面白いかな」って（笑）」



「嫌だ！嫌だ！嫌だあー！撮らないでええっ！ー！」

「あら？」

「教えていなかっただかしら？」

「高校生になっただけなら、男子に拒否権なんて一切無くなるのよ。」

「何でも女性の言うことには絶対服従！」

「今までは甘やかしてきたけど、これからは、社会に出て生きていけるように厳しく育てますからねっ！！」

「クスクス。」

「末っ娘の恥ずかしい部分が丸見え」（笑）。

「あー、恥ずかしい♪」

「オチ○チンの付け根から、先っちょまでぜろんぶ丸見え」（笑）」

「あらあらあら？
春樹君。もう高校生になったの？
早いわね？
ついでこの間までオネシヨで
お尻叩かれてなかつたっけ？」
「あら、お隣の山内さんじゃありませんかあ。
そろそろなんですか。
来年からはウチの子も高校生でしよ？
そろそろ躰けも厳しくしよかとお」
「あらあら。春樹くん、良かったわね。
これなら高校に行つて『お姉様』方に
いじめられなくても、ちゃんとやっついていけるわね。
身の程をわきまえた姿勢と、媚び媚びの可愛らしさは
女性に対する敬意と媚び媚びの可愛らしさは
男子の必須能力ですからね」



「全くですわ。
でもオネシヨ癖は未だに治らないですよお。
全く、24にもなつてオネシヨだなんて、
母親として恥ずかしい限りですわ」

「どこも一緒ですよお。
私の兄も妹の私にオムツ交換してもらうまで
オネシヨ癖が酷くてえ。
あ、でもお、
私のお古のオムツで、
妹の私がオムツの世話をしたらあ……
一気に治りましたわ」

「あら、ホント？
じゃあウチもそうしよかしら？
ねえ？亜弥♡」

「りよーか、いつ！」

この人は、隣に住んでるお姉さんで、名前前は山内桃香（やまうちももか）さん。近所の幼稚園の保母さんで、男子幼稚園卒園検定の公認検査技師でもある。

男子幼稚園卒園検定っていうのは、幼稚園の男子にだけ課せられた検査で、クリアーしないと一生幼稚園から卒園できない。



検査方法は至って単純で、オチ○チンのサイズが11センチ以上じゃないとダメ。だから、この辺の男子は全員桃香さんにオチ○チンを検査してもらっている。

だからなのかは分からないけど、僕は桃香さんに会うと、凄く・・・凄く・・・、恥ずかしい気持ちになってしまう。

「離してえ！離してえっ！」

「ダメっ！」

そのまま動かないで！

カメラのファインダー越しに見ると、

『よし子』のオチ○チンがよく観察出来るん

だよねぇ(笑)

あ、タマがキュンキュン♡してるぅ(笑)。

勃起数秒前って感じ(笑)

見られて勃起しちゃうなんて、

やっぱ男の子だね(笑)。

末っ娘として正しい反応だと思うよ(笑)？」

「あらあら♡」

春樹くん、今は『よし子』ちゃんって呼ばれて

いるの？」



「そうなんですぅ♡」

今日から『よし子』なんだよね(笑)？」

「ね(笑)？」

あ、勃起し始めた(笑)。

『よし子』って呼ばれて嬉しかったのかな(笑)？」

「媚びを売るのが上手なのかな(笑)？」

『よし子』ちゃん皆に愛されてるわね(笑)？」

幼稚園の卒園試験も同じ手で卒業したんだもん

ね(笑)？」

勃起で女性の機嫌をとるのは、

昔っから大得意だよ(笑)？」

「あらあら。」

そうでしたの？」

小さいオチ○チンの癖にどうやって卒園検定を

パスしたのかと思っていたんですが(笑)。

どうりで(笑)。」

「ほらほら。腰が引けて内股になるとどんどん女児パンツがずり落ちちやうわよ?」

「しっかり立ちなさい。」

「ママが『良い』と言うまできちんとしてなさい」

「クンクン。あれ? ちょっと。ね。『よし子』のおち○チン、匂わな?」

「クンクン。」

「あ、ホントだ!」

「カウパー液の香りじゃない!」

「これ、オシッコと精液の混じった匂いだ!」

「違う! 違うのおおっ!!!」



「何? アンタ、ちゃんとお股も綺麗に洗えないわけ?」

「ちゃんと指にボディーソープ付けて。お股の汗ばんだ所を指のお腹で、シコシコって擦るのよ。オナニーする時みたいにね♥」

「おち○ポの皮の中にも恥垢が溜まってるから、指で中をゴシゴシ洗うんだよ?」

「包茎なんだから、ね♥」

「よ・し・子・ちゃん♪」

「お尻も忘れちゃダメよ?」

「男の子は赤ちゃんと同じ肌レベルだから、あせもがでやすいし。」

「それに、お尻は女性に叩いてもらう為だけに存在するんだから特に念入りにね?」

「見ないでえ！嗅がないでえ！
綺麗にしてるもん！
毎日お風呂で綺麗に洗ってるもんっ……！」

「そうじゃないのよ？」

よし子。
綺麗に洗うだけじゃダメなの。
よし子みたいなの童貞で包茎で、
その上、24にもなつてようやく男の子らしく
従順で可愛くなるうって男子はね。
普通以上にいい香りをさせていないと
ダメなのよ？

今日からお風呂に入ったら、
『小さな女の子用』を使いなさい。
そうしたら『匂う』なんて言われないから」



「ほ……っら……泣いてないで素直に受け入れ
なさい。
例えばそうね。こんな風に約束したらどうかしら？」

「オシッコと恥垢まみれのミニオチ○チンが
匂ってしまったって、本当にごめんなさい。
今日からは、おチ○ポは根本から皮の中まで
『小さな女の子用』石鹸を使つて、
指で綺麗に洗います。
女の子としてのご指導、有難うございました」

「クスクス。
それが言えたら、今日はオウチ帰ろっか？」

「そんなこと……言え……ない……」

「じゃあここでお尻叩きの続きする?」

「う……、うう……」
お、オシッコと恥垢まみれのミニオチ○チンが
匂ってしまつて、本当に……ごめんなさい。
今日からは、おチ○ポは根本から皮の中まで
『小さな女の子用』石鹸を使つ、使つて、
ゆ、指で、あの……指で綺麗に洗います。
お、おん……女の子としてののご指導、
あ、有難うございました」

「クスクス。言っちゃつた♥」

「言っちゃつた♪言っちゃつた♪」

末っ娘だつて自覚できてきたね♥」



「それから……、今日は突然の外出だつたから
許すけど、普通ノーメイクで外出なんて
ありえないわよ?」
朝は必ず、可愛く媚び媚びのメイクをしてから
家を出なさい。
メイクは……亜弥。
貴方が教えてあげるのよ?」
「はあ……い!」

「お風呂は『小さな女の子用』のアメニティで
綺麗に洗うこと。
身体も髪も、全部ね。
外出する時はしつかりメイク!
良いわね?」

「……は……い……」

こうして僕はその日の晩から、『小さい女の子用』のアメニテイ（※）を使ってお風呂に入った。

子供の頃使っていた、子供用の歯磨き粉の味と同じイチゴの香りが鼻先を撥る。

お砂糖とイチゴを合成して作ったような甘くいい香り。

男としての誇りを捨てない僕でも、自分の体からこんな子どもじみた香りがすれば嫌でも自覚してしまう。

幼稚な自分を・・・。

そして僕以外の誰かが僕を幼稚だと感じるのも仕方のない事だ・・・。

※アメニテイ・・・バスルームの備品。

シャンプー・リンス・石鹸等を指す。

ホテル・旅館向けのバスルーム用品全般を指す場合もある。

そして翌朝から僕は、

亜弥『お姉様』に

Ⅲお化粧Ⅲを

教えてもらおうことになった。